

モジュール科目実施説明会

【趣 旨】

新しい教養教育で求められる教育方法について、本学でのアクティブ・ラーニング実践事例をもとに理解を深め、担当科目での授業設計に役立てる。

【到達目標】

新しい教養教育の実施体制と教育方法について理解を深め、テーマ責任者あるいは科目担当者としての役割の内容を把握していただく。

【対 象】 全学モジュールのテーマ責任者および科目担当者

【主 催】 教務委員会

【企画・実施】 評価・FD 教育改善専門部会

1. アクティブ・ラーニング事例研修①

【日 時】 平成 24 年 1 月 5 日 (木) 16:00-17:30

【場 所】 全学教育棟 204 室

【内 容】

16:00 ~ 16:05	開会挨拶	橋本 健夫 副学長
16:05 ~ 16:30	新たな教養教育について	橋本 健夫 副学長、山地 弘起 准教授
16:30 ~ 17:00	事例報告	丹羽 量久 教授 (情報メディア基盤センター)
17:00 ~ 17:30	質疑応答	

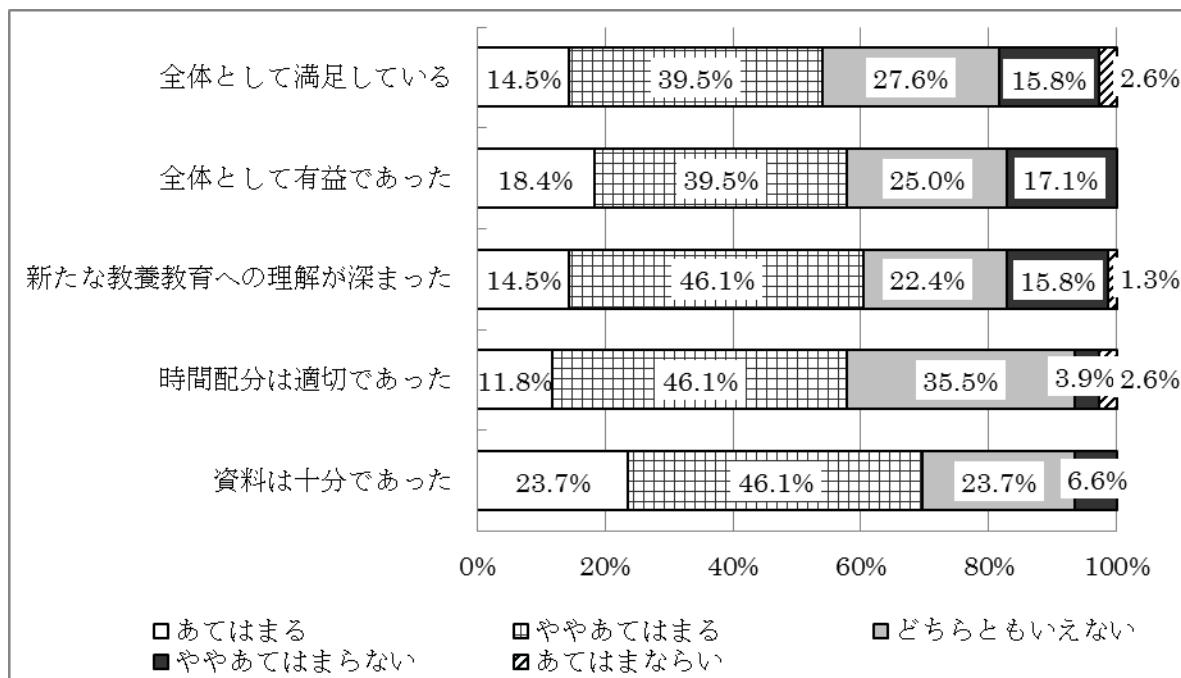
【参加者】

113 名 (受講証発行対象者: 113 名)

所 属	職名	人数
教育学部	教授	6
	准教授	2
経済学部	教授	4
	准教授	1
医歯薬学総合研究科 (医)	教授	3
	准教授	1
	講師	1
	助教	3
医歯薬学総合研究科 (保)	教授	9
	准教授	5
	助教	1
医歯薬学総合研究科 (歯)	教授	6
	准教授	3
	助教	1

医歯薬学総合研究科（薬）	教授	3
工学研究科	教授	3
水産・環境科学総合研究科（環）	准教授	8
水産・環境科学総合研究科（水）	教授	6
水産・環境科学総合研究科（水）	准教授	9
水産・環境科学総合研究科（水）	助教	12
国際健康開発研究科	助教	11
熱帯医学研究所	教授	1
アドミッションセンター	准教授	2
情報メディア基盤センター	教授	2
情報メディア基盤センター	准教授	3
大学教育機能開発センター	助教	1
留学生センター	教授	1
留学生センター	准教授	1

【参加者からの評価】



○新たな教養教育について、疑問点や感想、ご意見などがありましたら、率直にご記入ください。

- ・グループ編成をする場合、学部混合の方が教育効果は高いのだろうか？（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・報告事例の中で、授業で使うツールを具体的に紹介していただければ助かる。例えば、Web Class や「もっと便利な掲示板、Communication-Tool」などであるが、こんな風に使えますという例を示してほしい。（水産環境科学総合研究科・教授）
- ・アクティブラーニング事例報告は非常に興味深かった。授業で使用した資料を開示いただき、具体的なイメージを得ることができただけでなく、学生の学びのプロセスが想像でき、アクティブラーニングが学びにとって、効果的、刺激的であったことが理解できた。教えていただいたツールを一部でも取り入れたいと感じたし、教員間のインターラクションの形も少し見えたような気がした。（国際連携研究・助教）
- ・モジュールⅠで科目を担当する予定であるが、多人数向けの学習形態（授業形態）について、実効性の担保の視点で悩んでいる。（情報メディア基盤センター・准教授）

- ・教室改修に関連して、端末教室についてもアクティブ・ラーニングに対応できる姿を模索したい。(情報メディア基盤センター・准教授)
- ・全学モジュールについてのイメージがより明らかになった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・成績評価の最終目標であるポートフォリオから自分の課題を見つけるところまでの評価をどのように盛り込んでいくか考えていかなければならない。これはモジュール科目の積み重ねで評価していく方が良いのだろうか。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・担当教員の先生方の綿密な計画と議論があってこそ、今回のようなアクティブ・ラーニングが実践できるのだと思った。(国際健康開発研究科・助教)
 - ・私の所属する研究科は、学生 10 名なので、十分にアクティブ・ラーニング手法を取り入れていきたいと思った。(国際健康開発研究科・助教)
- ・授業設計のツールや評価項目が大変参考になった。(国際健康開発研究科・助教)
- ・具体例をオンラインで見ることを可能にしてほしい。(准教授)
- ・教養教育はもちろん、専門教育へも導入したいと考えている。参考になった。(教育学部・教授)
- ・質問でもあったが、人数の問題がある。(医歯薬学総合研究科・准教授)
 - ・TA を雇用する場合、その学生のやる気の問題がある。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・他大学での事例（成功例、失敗例）に関する FD、あるいは資料配布がもっと必要だと思う。(工学研究科・准教授)
- ・興味深い話だった。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・まだ決定していない事項もあるので、満足度については低い評価とした。今後の FD の中で決まっていくことで疑問点も解消していくことを期待している。成績評価の具体的指導や再履修システム等が明確になっていく必要があると考える。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・アクティブ・ラーニングの授業が増えると、学生も大変になる。(モジュール以外でも、全学ゼミの授業で取り入れているため)(水産環境科学総合研究科・助教)
- ・質疑に対する回答である程度のやり方が見えたような気がする。(工学研究科・准教授)
- ・ご提案頂いた方法や内容をどのように具体的に取り入れればよいのか、いまひとつイメージ出来なかった。授業の科目や内容によっては、アクティブ・ラーニングの用い方が全く違うように思う。IT の活用も同様。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・アクティブ・ラーニングの事例で学生数が 16 名だったので、来年度からの方法に導入できるのか疑問であった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・2-3 名の教員で、100 名近い学生をアクティブ・ラーニングで教えるのには困難があるし、また、WebClass を利用できる教室も少ない。他学部、他学年の学生が集まる時間と場所の確保を大学として推進する必要がある。e-learning でどこからでもだれもが参加できるような学習形式でもいいのか。これならかなり自由度が増すと思う。(医歯薬学総合研究科・准教授)
 - ・ちょっと極端な事例だったように思う。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・目的意識も予備知識も異なる多人数の 1-2 年生を相手に、どうやって PBL を導入するかについての解は、今回の FD でも得られなかった。(工学研究科・准教授)
- ・報告者自身もおっしゃっていたが他科目への偏用の一般化が難しいように感じた。(教員 3 名体制など)(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・理論はよくわかるし、それを目指すべきとも考える。ただ、それを求めれば求めるほど、業務上（負担増）の困難さを感じる。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・多人数を対象としたアクティブ・ラーニングについて、具体例を知りたい。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・その気にさせるやる気をもたせることができることがわかったが、そのやる気を持たせるための授業づくりの具体例をもっとわかりやすく、映像を交える等して、ご提示いただければ教員ももっとやる気になるのではと思った。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・教養セミナーの事例を聞いたに過ぎない印象だった。(医歯薬学総合研究科・教授)
 - ・モジュールのスケールに合わない事例では参考にならない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・WebClass などの IT を活用するとき、学生のコンピュータ環境がバラバラ (CPU の能力や、OS など) に

- なると細かな問題が生じるのではないか。(word をデフォルトにするのではなく Free ライセンスのソフトを活用するなどの工夫が必要では?) (水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・100人の授業をどのようにするのか?これはそれぞれの先生方のノウハウを生かす型でやるべきでは?(教育学部・教授)
 - ・実現可能性について疑問が残った。(教授)
 - ・実際の授業実施に対して、有益と考えられる具体的示唆はほとんどなかった。(水産環境科学総合研究科・教授)
 - ・実際に専門教育を受ける基礎となる知識が付いたかをどのように把握するのかわからない。(水産環境科学総合研究科・教授)
 - ・大人数の場合を具体的に事例として見せてほしい。(経済学部・教授)
 - ・新たな教養教育についての説明はある程度理解できたが、報告事例については、具体的にどのような効果があったのかあまり理解できなかった。講義形式と比較して違いをはっきりわかるように説明してもらえばわかりやすかった。(医歯薬学総合研究科・准教授)
 - ・質問者にもあったが、少人数でモジュールはできないので、あまり参考にならなかった。(工学研究科・准教授)
 - ・紹介例が講義ではなく演習のような内容であった。このようなアクティブ・ラーニングは教養セミナーで十分。(工学研究科・准教授)
 - ・モジュールでアクティブ・ラーニングをするなら、教養セミナーは不要。といっても、取り入れられるものは取り入れていきたい。(工学研究科・准教授)
 - ・モジュール形式で、授業科目を提供することと、アクティブ・ラーニングとの関連が全く分からぬ。さらに、モジュールやアクティブ・ラーニングがなぜ「教養教育」の向上につながるのがまだはっきりしない。(教授)
 - ・来年からの新しい教養教育で「アクティブ・ラーニングをやりなさい」となっているが、100人クラスでの具体的な例をいくつか教えていただきたい。(水産環境科学総合研究科・教授)
 - ・新たな教養教育について、何がどこまで決まっているのか。制度的な話も必要。(工学研究科・准教授)
 - ・教養セミナーとの違いが見られない。16名という少人数では可能だが、モジュールⅠのような100人の講義では不可能な実施方法である。(工学研究科・准教授)
 - ・モジュールⅠは必修ですが、最近の学生は欠席することが多く(学校に来なくなる学生)の対応をどうするのかが心配。このような学生の対応する場所を作ってほしい。(工学研究科・准教授)
 - ・クリッカーを使ってみたい。(工学研究科・准教授)
 - ・WebClass 担当者の設置(医歯薬学総合研究科・教授)
 - ・国際社会におけるリーダー育成において、モジュール形式の教育プログラムが特別に有益だと言えるのか?もしそうでないなら、モジュール形式にする意義が不明。(水産環境科学総合研究科・准教授)
 - ・事例については、あまりにも少人数で参考にならないと思う。100-70名のクラスでは、どのようなことが重要なのか、情報が欲しい。少人数クラスを3名で担当したことから多人数を一人で担当する場合に、参考となることを提示して欲しかった。(教授)
 - ・課題(用意されたもの)をこなすだけで「社会人基礎力」や「21世紀型スキル」が身につくとは思えない。何を課題とすべきかを考えさせないといけないので?
 - ・何を学ぶ(学んでいるのか)が分かりづらいと思う。(学生によって)今後、何に応用できるのか。

○今回のセミナーの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・モジュール科目とe-learningシステムを結びつけたFDをして欲しい。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・実践に向けて多くのFDを開催して欲しい。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・私はipotfolioのユーザーで、独学で何とかしたが、双方向コミュニケーションができるようにもっと使いこなしたい。ipotfolioまたはWebClassのFDあるいは講習会があれば大変助かる。(国際健康開発研究科・助教)
- ・WebClassのセミナーをして欲しい。(教育学部・教授)
- ・WebClassに関する詳細について知りたい。(医歯薬学総合研究科・教授)

- ・e-learning のガイダンスの機会を作つて欲しい。(教授)
- ・教室が寒かった。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・今回の報告は少人数の教育でそれなりに多くの示唆いただいた。これから得られたものを多人数に適応するためには、どのような工夫が必要なのかを示してほしい。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・もっと具体的な事例を聞いてみたいが、時間的制約もあるので、致し方ないかと思う。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・テーマ別の課題学習であり、グループ毎の発表と基本的には教養セミナーで行っていることと同じである。もう少し真新しいアクティブ・ラーニングの実施形態を知りたかった。(水産環境科学総合研究科・教授)
- ・参加を強制しないでほしい。(工学研究科・准教授)
- ・e-learning システム、WebClass の利用方法について、トレーニングする機会を設けてほしい(使ってみたい)。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・もっと自由に意見、討論出来る場にしてほしい。(教授)

【総括】

社会から求められる人材の育成を念頭においた新しい教養教育ならびにこれを充実させるアクティブラーニングの位置付けについて説明がなされた。続いてアクティブラーニングの事例が紹介され、授業設計、アクティブラーニングの内容、e ラーニング (WebClass) の利用、学生による評価、複数教員による連携等の具体的内容が提示された。

事例の科目において履修者が 16 人と少人数であり、一方、担当教員が 3 人であつて、教員数に対する履修者数の比が非常に少なかった。このため、履修者が数 10~100 人程度と想定されるモジュール科目において事例をどのような形で参考にすべきなのか多くの参加者に理解されなかつたようである。多人数を対象とする授業設計やアクティブラーニングについての具体例の解説が望まれる。

2. アクティブ・ラーニング事例研修②

【日 時】 平成 24 年 2 月 28 日 (火) 16:00-17:30

【場 所】 全学教育棟 201 室

【内 容】

16:00 ~ 16:05 開会挨拶	松坂 誠應 教授
16:05 ~ 16:30 新たな教養教育について	松坂 誠應 教授、山地 弘起 准教授
16:30 ~ 17:00 事例報告	西村 宣彦 准教授（経済学部）
17:00 ~ 17:30 質疑応答	

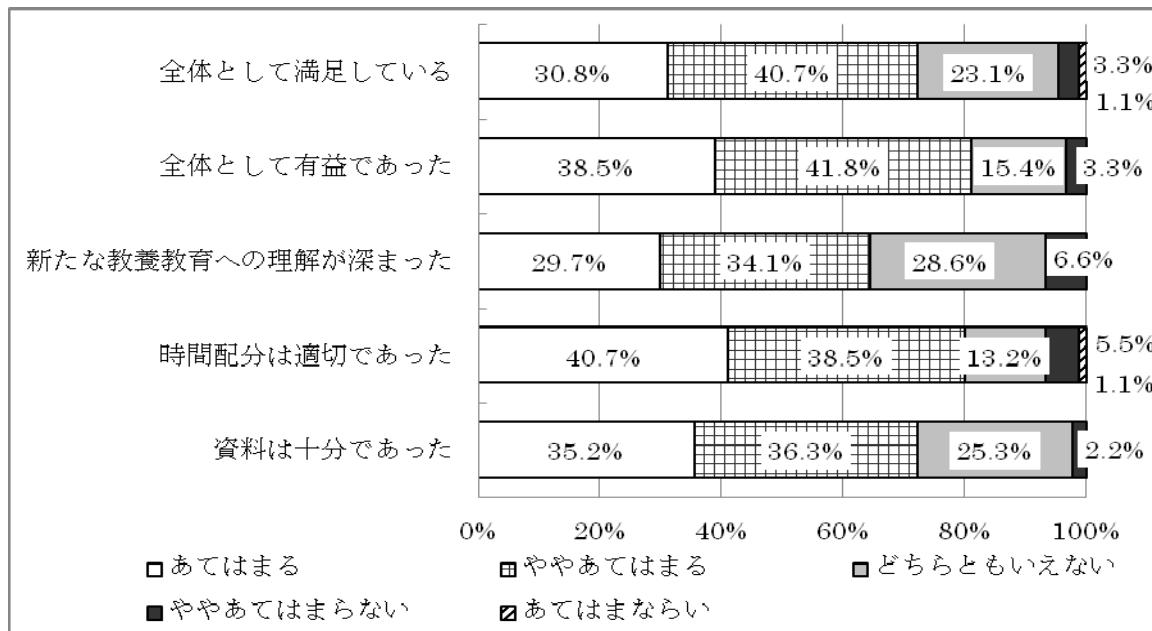
【参加者】

131名（受講証発行対象者：131名）

所 属	職名	人数
教育学部	教授	11
	准教授	5
	教授	10
経済学部	准教授	4
	講師	1
	助教	1
医歯薬学総合研究科（医）	教授	3
	准教授	2
	講師	1
医歯薬学総合研究科（保）	助教	6
	教授	6
	准教授	6
助教	教授	5
病院	教授	1
	講師	3
	助教	1
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	10
	准教授	4
	講師	1
医歯薬学総合研究科（薬）	助教	3
	教授	7
	助教	1
工学研究科	准教授	3
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	6
	准教授	8
水産・環境科学総合研究科（水）	教授	3
	准教授	1
	助教	1
国際健康開発研究科	教授	1
	助教	1
熱帯医学研究所	教授	1
産学官連携戦略本部	教授	1
	准教授	1
	助教	1

先導生命科学研究支援センター	助教	1
アドミッションセンター	准教授	2
情報メディア基盤センター	教授	2
大学教育機能開発センター	准教授	2
留学生センター	講師	1
	教授	2
	准教授	1

【参加者からの評価】



○新たな教養教育について、疑問点や感想、ご意見などがありましたら、率直にご記入ください。

- ・PC 端末が設置されていない一般教室でのアクティブ・ラーニング事例が紹介され、大変参考になった。(情報メディア基盤センター・准教授)
- ・アクティブ・ラーニングの参考になる文献を色々ご紹介いただけたとありがたい。(情報メディア基盤センター・准教授)
- ・西村先生のご発表は具体的な工夫が満載でためになった。(産学官連携戦略本部・助教)
- ・SA やマインドマップ、アイスブレーキング等の基本用語がよくわからなかった。(産学官連携戦略本部・助教)
- ・西村先生の実践例は大変参考になった。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・事例報告はとてもわかりやすく聞かせていただいた。(准教授)
- ・西村先生による授業実践の紹介は、大変良い参考になる。(助教)
- ・非常に勉強になった。労は多いということで、全面的な活用は難しいかもしれないが、何回かアクティブ・ラーニングを導入したいと思う。(経済学部・准教授)
- ・非常に分かりやすい話で良かった。(アドミッションセンター・教授)
- ・SA の確保については、センター教員にはハードルが高い気がする。(アドミッションセンター・教授)
- ・目標の設定とその評価について個人レベル、カリキュラムレベルでの考え方を明確にした方が良い。(熱帯医学研究所・教授)
- ・FD はすばらしい。(熱帯医学研究所・教授)
- ・事例報告は具体的な内容でイメージがわきやすく、参考になった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・モジュール化した目的や意義は、1月 FD と 2 回目ではまったく理解できない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・ジェネリックスキルの習得とモジュール化が論理的につながっていない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・モジュールのシステムが分かりにくい。(環境科学部・准教授)

- ・事例報告はためになった。これも理解が深くなったが、しかし、労力が大変である。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・新たな授業形態が紹介され、興味深かった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・非常に参考になった。かなり労力が必要と感じた。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・実際に工夫してみようと思う内容であった。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・教員にかなり労力がかかるからこそ、授業担当数、その他の業務の軽減も大学として考えてほしい。各担当者の授業は増やせ、内容も充実させろでは、教員のアクティビティが高まるわけがない。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・相当な時間がとられてしまうので、かなり難しいのではと思った。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・社会に役に立つ人々とひとくくり。具体的な役割分担が曖昧で理論だけに感じる。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・とても参考になった。(情報メディア基盤センター・教授)
- ・SA の役割について十分理解できた。(情報メディア基盤センター・教授)
- ・役割は良くわかったが、SA は何の略なのか。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・アクティブ・ラーニングの具体的なイメージがわからない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・自分の中で何を準備し、何の資料を用意する必要があるのかが明らかになっていない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・事例報告の中で、SA の活用の有効性が強調されたが、SA のファシリテーター能力研修を実施してほしい。(教授)
- ・今日の講演を聞き、ぜひ SA を導入していただきたいと思った。(経済学部・教授)
- ・西村先生の話には、参考になる点が多くあり、専門でも使用したいと考えた。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・SA はどのようにして候補をあげたのか?SA 自身の予定(授業、実習)等の都合をどのように把握し、リクルートしたのか。参加したことへのSA へのインセンティブはどうなっているのか?(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・専門知識の融合(まとめ)のときは非常に有効かと思うが、まずは知識を得ないといけない専門教育では取り入れにくいという印象を受けた。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・授業方法等については、少しずつわかってきたが、モジュールの実際の運用が分からぬ。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・助教の立場では、SA, TA を雇うことは難しいのではないか。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・報告事例が素晴らしい実践であった。具体的取り入れ方を考えながら拝聴することができた。(教育学部・教授)
- ・報告事例はとても勉強になった。実際に使用したワークシートやマインドマップなども提示してもらえるとなお良かった。(准教授)
- ・1 クラス何人ぐらいになるのかをはっきりと知りたい。それによって、できることも変わるとと思う。(准教授)
- ・多人数でのアクティブ・ラーニングは難しいと思った。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・今回のFDで少しイメージがわいた。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・現在もアクティブ・ラーニングで講義を行っているが、手間がかかる。そのことを理解、評価して欲しい。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・事例報告は大変分かりやすかった。(経済学部・准教授)
- ・具体的なところのイメージがわかなかった。
- ・実際の授業内容のビデオを視聴したい。
- ・SA の必要性が理解できた。
- ・SA を導入するためにアクティブ・ラーニング授業の負担感を強調されると取り組みに消極的になるのではないか。(教授)
- ・事例報告は、参考にできる内容がたくさんあった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・モジュールとアクティブ・ラーニングはイコールの関係ではないと思うので、関係性については、少しわか

りづらい印象があった。モジュール科目とアクティブ・ラーニングは分けてFDをされてはどうだろうか。
(医歯薬学総合研究科)

- ・報告事例については、興味深く聴講した。ただ、専門職教育の中で実践するには少し難しい面もあると思った。国試合格のための知識、専門職としての技術の習熟を求められる科目における展開は難しいように思った。ただし、エッセンスを少しずつ使っていくことについては、考えたい。(医歯薬学総合研究科)
- ・ゆとり世代の学生で十分な知識を得ていない学生に対して、このような授業ばかりしていて、新に実力は付くのかどうか疑問に思う。例では創造性は知識に比例しているというデータがある。十分な知識を持っていないと考える力はつかないのでないのだろうか。(教育学部・教授)
- ・モジュール型の教育へ移行するメリット理由をもっと詳細に説明して欲しかった。(経済学部・准教授)
- ・何かが変わるのかが、いま一つわかりづらかった。(経済学部・准教授)
- ・アクティブ・ラーニングについては十分に理解できた。(経済学部・准教授)
- ・内容が抽象的なので、もう少し具体的に事例を述べてもらいたい。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・自分自身の勉強不足のため、内容が良く分からなかった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・アクティブ・ラーニングは確かに興味深いが、全ての科目で導入する必要はないと思う。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・TAやSAがアクティブ・ラーニングに必要であることが分かった。テーマ(モジュール)世話人および担当者からの、TAやSAの要求数ができるだけぜひ認めて欲しい。(教育学部・教授)
- ・その他、外部の非常勤についても同様に人数など許される限り認めて欲しい。また講師料についても常識の範囲で認めて欲しい。(現在、4000円という非常識な金額が示されている。これは改めて欲しい。長崎県立大学シーボルト校では2万円が出されていると聞いている。)(教育学部・教授)
- ・まだ「モジュールによる教養科目」の目的が納得できない。「モジュール」と「全学教育」を入れ替えて、当然のことと受け取れて、あえて「モジュール」にするのか理解できない。(工学研究科・准教授)
- ・今回、FDの内容は、方法論やシステムの話で、従来の「全学教育」の問題は、そこだけにあるのかと疑問を持つ。(工学研究科・准教授)
- ・このままでは、「モジュール」の数年後、「全学教育」と同じ問題を持つことになるのではないかと心配している。(工学研究科・准教授)
- ・自然科学系の講義で、報告されたようなアクティブ・ラーニングが可能なのか、疑問である。(工学研究科・准教授)
- ・新たな教養教育、特にアクティブ・ラーニングの事例の報告があったが、この種の講義をするには本学の教養棟の講義室の多くが固定式机・椅子を備えているので、不向きである。数年前に教養セミナーが始まった時も受講生をグループに分けて調査させてプレゼンさせるよう指示があったが、固定式机・椅子の講義室が割り当てられ、講義がしづらかった。学長・理事サイドはもっと経費をかけて教養棟を現代的なものに一新するべきである。PC用プロジェクタも天吊り設置されていない講義室が多く、そこではいちいち保管庫からプロジェクタを出し、各種コードをつなぎ、手動でスクリーンを下ろしカーテンをして準備をし、講義が終われば、その片づけをするので、講義の前後に準備と後片付けのために時間が費やされ、正味の講義時間が短くなる。本学は教育現場には金をかけずにFDばかりするが、教員側が能力が無いから教育改善が進まないわけではなく、教育設備という環境が悪いから教育改善が進まないのでなかろうか。事例報告者の西村先生がかつて、FD開催の講義室のような固定式机・椅子の講義室では授業がやりにくいくらい他の教室に変更してもらったという話に真摯に耳を傾けて欲しい。(教育学部・教授)

○今回のセミナーの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・前回FDの意見に回答するのなら、事前に運営者内で議論しておくべきだ。この場でぶつけて、答えにもなっていない。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・もう少し早い時間に実施してほしい。(環境科学部・准教授)
- ・Round Robin, Zgaw, Reev Editing, マインドアップ、Ice breaking, ファシリテーターなどの用語が難しい印象だった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・良かったと思う。意図がはっきりわかった。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・アクティブ・ラーニングの講義を見学してみたい。あるいは、DVDを視聴したい。(準備を含めた)(医歯

薬学総合研究科・教授)

- ・17時30分以降の設定もしていただきたい。なかなか抜け出して参加するのは難しい。(主に診療に従事している教員も多いと思われるため)(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・実際のカリキュラム(時間割、シラバス)を示したうえで、やってほしかった。(イメージがわからない)(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・分かりやすかった。ただし、未確定要素が多い。クラスサイズ、TA、SA、場所など、これが明確になるとイメージを描きやすい。(准教授)
- ・他のFDと共に通している項目があるのに、なぜ、一部参加を認めないのか説明いただきたい。(経済学部・准教授)
- ・総論ではわかるが、いざ自分の授業になるとなかなか結びつかない。(教育学部・教授)
- ・このFDを2回受講する意義が不明確。(経済学部・准教授)
- ・前回との内容の重複は時間の無駄。(水産環境科学総合研究科・准教授)
- ・FDもアクティブ・ラーニングを多く取り入れてほしい。(例:事例発表『中』に、疑問点を指摘し合うなど。)(工学研究科・准教授)
- ・もっと具体例を多くしてほしい。(文系1人、理系1人)(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・西村先生の実践例はおもしろいと思いながら拝聴した。ただ「経営情報システム論」の講義の性格上、アクティブ・ラーニングに向いているのかもしれない。「〇〇システム」は、基本的内容はどこで教えるのも同じであり異種はあまりない。しかし、学校教育の教師は将来、チームではなく、たった一人で授業を受け持ち、多様な生徒を相手にしないといけない。チーム教育ばかりしていれば一人前の教師を養成できない気がする。今回のFDでは対象者が限定されているが、他の対象者が限定されていないFDでは同じような参加者の顔ぶれをよく見かけて、出席しない人は全く出て来ない。FDに参加しない人、つまり自己啓発の意欲がない方に対しては、昇給を認めないと対策をとる必要があると思う。大学の浮沈に関わるからである。(教育学部・教授)

【総括】

全学教育モジュールのテーマ責任者および科目担当者を主たる対象として開催された第74回長崎大学FDでは、アクティブラーニングの事例説明を中心とした研修が行われた。受講証発行対象者数は141名に及び、長崎大学のほぼすべての部局からの参加があった。FD参加者の多くはアクティブラーニング事例の説明に対して、「大変興味深く、ためになった」と回答している。しかし、従来形式の講義に比べて準備に要する時間が莫大になることや、グループワーク中心の実習のみで十分な知識を与えることができるのかといった重要な懸念も示されている。また、本FDがモジュール科目の実施説明会の一環として開催されていることを受けて、「科目をモジュール化した目的や意義」が十分に説明・理解されていないことや、「ジェネリックスキルの習得と科目のモジュール化との関連」について疑問を呈する意見が目立つ。従来の全学教育の問題点がどこにあり、それらが科目のモジュール化によってどのように解消されるのかを十分に説明した後に今回のようなFDを実施することが重要である。アクティブラーニングの実践には、それに相応しい教育設備(防音された教室、スクリーン、ビデオプロジェクター、作業台を置いたスペース等々)やマンパワーが必要であり、モジュール教育のための教室の現代化とともに、TAやSAの拡充を強く望む意見もあった。

3. アクティブ・ラーニング事例研修③

【日 時】 平成 24 年 3 月 19 日 (月) 16:00-17:30

【場 所】 全学教育棟 201 室

【内 容】

16:00 ~ 16:05	開会挨拶	橋本 健夫 副学長
16:05 ~ 16:30	新たな教養教育について	橋本 健夫 副学長、山地 弘起 准教授
16:30 ~ 17:00	事例報告	安武 亨 教授（医歯薬学総合研究科）
17:00 ~ 17:30	質疑応答	

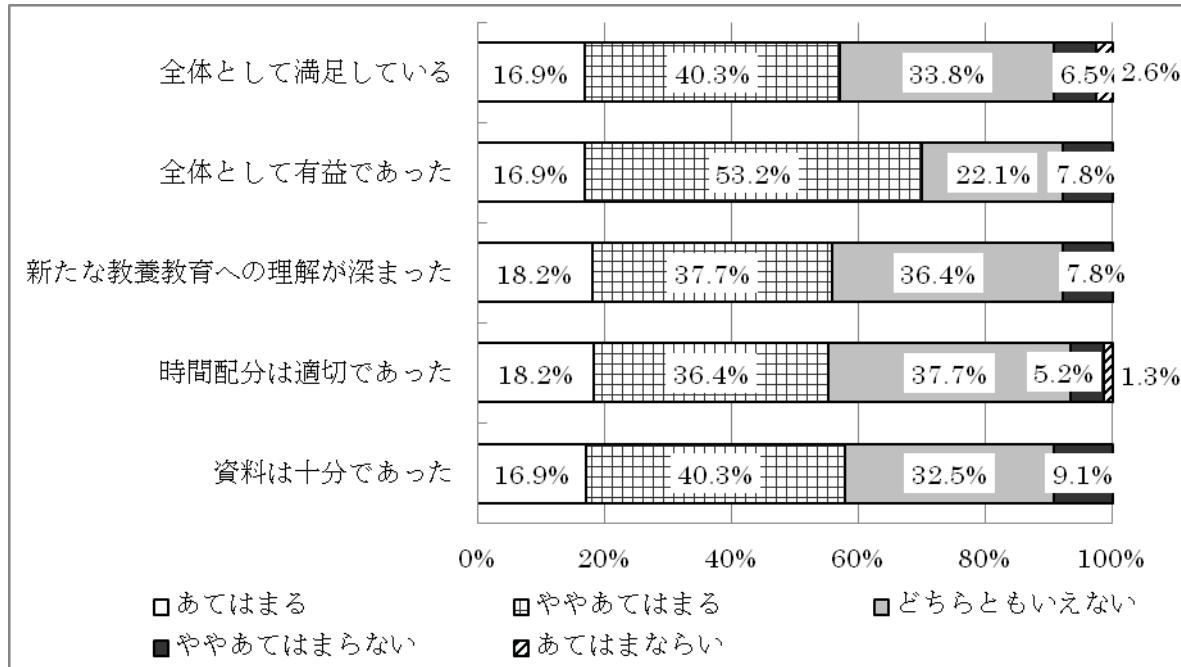
【参加者】

100 名（受講証発行対象者：100 名）

所 属	職名	人数
教育学部	教授	7
	准教授	3
経済学部	教授	2
	准教授	3
	講師	1
医歯薬学総合研究科（医）	助教	1
	教授	4
	准教授	1
医歯薬学総合研究科（保）	助教	2
	教授	2
	准教授	2
病院	助教	4
	教授	2
	講師	3
医歯薬学総合研究科（歯）	助教	1
	教授	5
	准教授	4
医歯薬学総合研究科（薬）	講師	1
	助教	2
	教授	7
工学研究科	准教授	3
	教授	3
	准教授	6
水産・環境科学総合研究科（環）	助教	1
	教授	2
	准教授	5
水産・環境科学総合研究科（水）	教授	5
	准教授	6
	助教	1
熱帯医学研究所	教授	1
学生支援部	班長	1
広報戦略本部	教授	1
産学官連携戦略本部	教授	1
先導生命科学研究支援センター	教授	1

情報メディア基盤センター	助教 1
大学教育機能開発センター	准教授 1
留学生センター	教授 1
	准教授 1
	教授 2

【参加者からの評価】



○新たな教養教育について、疑問点や感想、ご意見などがありましたら、率直にご記入ください。

- ・参考になった。(経済学部・准教授)
- ・クリッカーシステムは必要だと思った。(教育支援課・職員)
- ・アクティブ・ラーニングのガイドブックを作成して欲しい。(工学部・教授)
- ・大変興味深く聞かせていただいた。(保健学科・教授)
- ・「アクティブ・ラーニング」、「モジュール方式」については良く理解できた。何事もトライ&エラーだと思うが、教養教育の改革はとても大事なテーマなので、ぜひしっかりと取り組んでいきたいと思う。ありがとうございました。(薬学部・教授)
- ・アクティブ・ラーニングの実践例について、もっといろいろな分野の実践例を知りたい。そのようなことをまとめた本を紹介してもらえば助かる。(センター・教授)
- ・アクティブ・ラーニングの手法を全体的にある程度統一するためには、成人学習理論を学ぶ教員のための教育コースの設立が必要ではなかろうか。日本人が言うアクティブ・ラーニングとは北米で言う成人教育理論に基づく様々な teaching style であると理解する。成人教育理論にはいくつかの基本となる理論があり、それを学ばないとなかなか難しいのではないかと感じている。(教授)
- ・報告事例は今後の自分の講義の参考になったが、アクティブ・ラーニングとモジュールは無関係に感じた。モジュール制や自学部学生の受講制限、講義負担の学部間格差は理解できない。(工学研究科・准教授)
- ・教員も足りない(TA も含めて、環境も整っていない、新たな教養教育の全体像(大学生全体の概念はおおよそ分かった。担当する部分が、学科学部で教育する内容のどの部分に当たるのかが全くわからない。)も見えないなか、走り出すことがとても不安だ。安武先生のお話については、私も講義の中でクイズのようなものを取り入れているが、徐々に発展するという形ではなかったので参考になった。(助教)
- ・保健学科であるので今日の安武先生の講義は役に立った。分かりやすかった。後半、もう少し時間があれば良かったと思う。(保健学科・准教授)
- ・学習環境がアクティブ・ラーニングに見合うよう整備されるということが聞けて安心した。平面の部屋、木

ワイトボードは是非欲しい。クリッカー（学生の座席がわかるもの）も是非整備して頂きたい。（教育学部・准教授）

- ・Response analyzer を是非使用した TBL を見学したいと思う。（歯学部・講師）
- ・TA の要望とか準備の話などは全く聞いていないが大丈夫なのか？（講師）
- ・安武先生は、良くされておられると感心した。（歯学部・准教授）
- ・少し理解できた。（先導生命科学研究支援センター・教授）
- ・TBL の具体例を知りたい。マニュアル以外にもDVD 鑑賞も欲しい。見学できるのはとても良い。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・モジュール方式が理解できていない。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・先導生命科学研究支援センターが受け持つ科目では、結局オムニバス形式となった。そのためにアクティブ・ラーニング形式についてどう導入していくか非常に頭を悩ますところである。（先導生命科学研究支援センター・助教）
- ・大人数での講義形態でのアクティブ・ラーニングの実例を示してほしい。クリッカーはモジュールⅠでは、非常に利用価値が高いと考える。最優先で整備してほしい。予算が不足するなら、教員に配られる予算を使ってほしい。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・前向きに導入すべきだと思うが、科目毎で紹介されたアクティブ・ラーニングの手法の向き、不向きが担当教員の感覚で判断してはいけないのか？（工学研究科・助教）
- ・アクティブ・ラーニングとして本日の実例はいかがなものか？（教育学部・教授）
- ・レスポンスアナライザーに関する資料が欲しかった。安武先生の行われているアクティブ・ラーニング事例に対する学生の反応や、これまでの教育方法と比較して、学生への教育効果としてどの程度の違いがあるのかを知りたかった。今後の医師国家試験の合格率や臨床実習での様子に変化があることを期待する。（保健学科・助教）
- ・自分が担当する科目について全体（学部、全学）モジュールとの関連をはっきりさせることができ具体的な方法や内容には必要と感じた。本日の話からも特に担当間の共通理解が必要と思う。布にするには学生の評価方法だけでなく、教員の評価（具体的方法など）も必要では。それを今年度終了時に公開して欲しい。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・学部や学科によって学生のモチベーションが異なっているように思う。その一つの原因として受験の時点で学生本人の意志よりも高校の進路指導やセンター得点により受験校・学部を決めることがある。モチベーションを上げるための大学の努力は教養教育として行うよりも専門的な教育の方が将来が見えて有効なのではないだろうか。（医歯薬学総合研究科・准教授）
- ・モジュールのかたちを縦糸と横糸で織り込む表現があった。確かに概念はわかるがモジュールのテーマ自体がかなり絞り込まれているので、学生の興味意欲を限定してしまう恐れを感じている。（水産環境科学総合研究科・准教授）
- ・「モジュール方式」になるための FD として「アクティブ・ラーニング」の FD があるのかがよくわからない。なぜ「モジュール方式」が導入される必要があるのか明確に説明してほしい。1人の学生が1つのモジュール内で完結するのなら横糸は1本（テーマ）しかなく布はできないのでは？（工学研究科・准教授）
- ・全学教育科目として受講する学生（旧カリ）とモジュール方式による教養科目を受講する学生が混在するので、前者の学生にとってマイナスにならぬように配慮をして頂くことが大事であると思う。特にモジュール方式導入は留年に直結するような印象が強いので、配慮してほしい。（工学研究科・教授）
- ・モジュール化への動きが迅速なように感じた。（環境科学部・准教授）
- ・モジュールについてはどこで知れるのか？（薬学部・准教授）
- ・教員のオーバーアチーブをどうやって実現するのか？（教育学部・教授）
- ・受講者人数によってアクティブ・ラーニングの形式も変わる可能性もあると思うが、受講者人数は予め想定されるのか？（工学部・准教授）
- ・どうやっていいのかわからない。（医学部・教授）

○今回のセミナーの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

- ・レスポンスアナライザーはおもしろいと思うが、機材を購入しなければならないのが問題だ。（経済学部・

准教授)

- ・実際にクリッカーを用いたFDを企画してはいかがか。（教育支援課・職員）
- ・お世話になりました。（薬学部・教授）
- ・演者の選出が重要。アクティブ・ラーニングを実践されている先生の講演はためになる。モジュールとは関係ないけれど・・・。（工学研究科・准教授）
- ・このFDもアクティブ・ラーニングで行ったら良いのではないか？（教育学部・准教授）
- ・センター試験の説明会と重なるといった配慮が無いので出席できなかった回がある。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・もう少し時間を短く（1時間程度）設定できないか？教員もその他の仕事で多忙のため。（准教授）
- ・シンポジウムと今回と2回受けたが、説明および理解ともに少し深まった。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・新しい情報を知れて良かった。（薬学部・准教授）
- ・アンサーチェッカー、スクラッチ、色画用紙を講義で用いることの有用性を確認することが出来た。（教育学部・教授）
- ・安武先生はお話し中、パソコンとスクリーンしか見ずに淡々と話をされるだけなので退屈であった。もう少し良い講師を用意して欲しい。（教育学部・教授）

【総括】

モジュール制を含めた新たな教養教育への大学の取り組みに関する情報共有と共通認識の醸成という点では、アンケートで見る限りさらなる努力の必要を感じさせられるが、今回のFDのような取り組みによって、かなり進展しているように評価できよう。参加された先生方の関心も高まっていることが感じられる。今後の課題として、アクティブラーニングの実例、TBLの具体例、クリッカーとレスポンスアナライザー等機材の整備が指摘されていることに留意すべきであると考える。モジュール方式を成功させるためには担当する教員の間での連携の強化を含めた自覚の向上が必要であるという趣旨の指摘があるが重要であることは言うまでもない。